

お知らせ

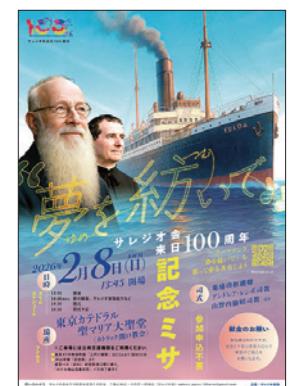
イベント予定変更のお知らせ

●2025年12月～2026年1月に予定していた「協働者のイタリア巡礼」は事情により中止となりました。

●2026年2月7日に予定していた「若者の集いwith 総長」は、日程を変更して2026年10月3日に開催予定です。詳細については今後発行される『ドン・ボスコの風アヴァンティ』にてお知らせ予定です。

●「サレジオ会来日100周年記念ミサ」は2026年2月8日に開催されます。詳細はサレジオ会関連の各所にて掲示中のポスターをご確認ください。

なお、ポスターは下記QRコードよりダウンロードできます。



サレジオ会
来日100周年
記念ミサ
告知ポスター



●「サレジオ会来日100周年記念クロージングミサ」は2026年10月4日（日）に開催予定です。このイベントに総長ファビオ・アッタールド神父が参加予定です。

サレジオ会来日100周年に関する情報はこちら



100周年記念
アーカイブサイト
<http://www.oratorio.tokyo/>



ドン・ボスコの風
インスタグラム
<https://www.instagram.com/dbnokaze/>



ドン・ボスコの風 アヴァンティ no.4

編集人 岡本 大二郎
発行人 濱崎 敦
発行所 サレジオ会日本管区本部
「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
電話:03-3351-7041 Fax:03-3341-5429
Eメール:dbw@salesians.jp
編集・デザイン制作 ドン・ボスコ社
印刷所 株式会社プリントパック

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© サレジオ会日本管区本部 2025

導かれて生かされる人生



サレジオ会宣教師派遣
150周年の今年、記念すべき宣教派遣メンバーに日本人が1人います。その人は東アフリカ管区所属の森戸千尋神父。南スーダンに宣教派遣されました。しかし、彼が南スーダンに来るまでの道のりはとても起伏に満ちたものでした。

彼がキリスト教カトリックの洗礼を受けたのは24歳の時で、サレジオ会のロロピアナ神父によってでした。それまでは無神論や世俗的な価値を追い求めていたといいます。そんな彼はある"夢"や"声"によって現在の姿に導かれたと語ります。そして彼が模範とするのは100年前に宣教派遣で来日したチマッティ神父。彼の夢は、南スーダンで「第二のチマッティ神父」になることだと語っています。



森戸神父のANSによる
インタビュー全文（英文）は、
右のQRコードよりご覧いただけます。



Salesian Bulletin Japan

ドン・ボスコの風

Avanti

アヴァンティ

no.4

2025.12

150 RINGRAZIARE RIPENSARE RILANCIARE

サレジオ会宣教師派遣150周年

カトリック浜松教会 2025年1月1日 神の母聖マリアの祝日に

巻頭言

ドン・ボスコとオラトリオ

ドン・ボスコのオラトリオは、1841年12月8日、無原罪の聖母の祭日に起きた一つの出会いから始まりました。トリノにあるアッジの聖フランシスコ教会で、香部屋係に叱られて困っていた少年バルトロメオ・ガレッリに、ドン・ボスコはそっと近づき、「君とわたしは友だちだよ。口笛は吹けるかい?」と声をかけます。助けを必要とする若者に寄り添う、この瞬間こそサレジオ教育の原点でした。

ドン・ボスコは少年たちを集め、彼らが祈り、歌い、遊び、学ぶ場を開きました。これがオラトリオです。そこには若者一人ひとりを尊重するまなざしと、家庭のような温かさがありました。しかし、多くの少年が集まることで近隣住民や教会関係者、家主や市当局が不安を抱き、ヴァルドッコに落ち着くまでオラトリオは何度も移転を余儀なくされます。時には市営墓地を活動場所にしましたこともあります。

ドン・ボスコが始めたオラトリオの精神は、やがてサレジオ会員を通して世界へと広がっていきます。1926年、チマッティ神父と8人のサレジオ会員が門司港に到着しました。彼らは財政難や戦中戦後の混乱の中であっても、学校や施設、教会やオラトリオを築き、「最期の一息まで貧しい若者のために捧げる」というドン・ボスコの誓いを生き抜きました。

今日、日本管区に見られるオラトリオも単なる集いの場ではありません。私のいる調布のオラトリオでは、日本で働いたり学んだりしている多くのベトナムの若者たちが仲間と出会い、支え合いながら希望を取り戻しています。同様に、日本にあるサレジオ会の支部は全て、ドン・ボスコが願った、若者が祈り、交流し、安心して帰ってこられる「家 (casa)」なのです。

ガレッリ少年との小さな出会いは、今も私たちの使命の中心で生き続けています。



記念期間: 2025年2月8日～2026年2月8日

「ドン・ボスコの風」について

「ドン・ボスコの風」はサレジオ会創立者ドン・ボスコが1877年に創刊した"Bollettino Salesiano"の日本版。サレジオに関わる人々との生き方や活動を紹介し、サレジオ家族の絆を深めるサレジオ会広報誌です。

note版「ドン・ボスコの風」 https://note.com/db_no_kaze

サレジオ会日本管区が管理人を務めるサレジオ家族のウェブ版オラトリオ(学び舎)です。若者と、と共に歩むすべての人が、学び・つながる場として、皆さんと一緒に作っていく発信スペースです。サレジオ家族の様々な人々や場所、事柄を随時紹介しています。



サレジオ会日本管区の支部と各地のオラトリオ紹介

サレジオ会が日本に来日してからの100年の間に各地に小教区や教育施設、福祉施設、神学校、出版事業などが創設され、さまざまな活動が行われてきました。多い時には150人以上のサレジオ会員が30以上の拠点で働いていましたが、現在では会員の高齢化や減少の影響もあり、9支部に統合されています。どの支部のどの活動も、サレジオ会のカリスマ（理念）に基づく青少年教育の場である「オラトリオ」であることが目指されています。サレジオ会来日100年を迎える現在の様子をいくつか紹介します。

2025年12月現在 ※教育・福祉施設の合宿所等は記載していません

日向学院中学校・高等学校

チマツティ神父によって創設された宮崎小神学校を前身として1946年4月に日向中学校として開設。会員養成のための志願院も併設されていました。その後、高等学校開設や男女共学化など時代の要請に応えながら、ドン・ボスコの教育の実現に励んでいます。



調布 ドン・ボスコ オラトリオ

2020年6月に調布支部で春山神父を代表として開始。対象は外国籍の若者。現在は技能実習生や日本語留学生として来日したベトナムの若者を中心活動しています。毎週火・金に祈りとカテキズム、第一と第四日曜日はミサや様々な支援や活動を行っています。



東京サレジオ学園

戦後もない1946年、戦災孤児を救うためにタシナリ神父を中心に創設。時代の要請に合わせ変化し続け、現在は幼児から20歳まで約100名の子どもたちが本園9つ、近隣各地域のグループホーム6つの計15の園舎（家）で生活しています。



浜松教会

1993年、浜松市でサレジオ会員によるブラジル人の司牧が開始。2007年にサレジオ会が横浜教区の委託を受け、浜松教会はさまざまな国の信徒たちが違いを超えて歩んでいます。このオラトリオでは、若者や子ども約100人が学びや交流に参加しています。



サレジオ会日本管区の拠点の中で一番北にあるのは「野尻湖カトリック教会」です。ここは第二次世界大戦終戦の年1945年4月に会員の疎開先として入手した場所です。教会だけでなく、学校の山荘もありますが、冬季は豪雪のため、夏季のみ開かれています。

●野尻湖カトリック教会 ※夏期のみ
(四谷支部)

長野県

杉並支部
調布支部
四谷支部
横浜支部
目黒支部

四日市支部

三重県

静岡県

大阪支部
大阪星光学院中学校・高等学校

鈴鹿教会(四日市支部)

三河島教会

現在、サレジオ会日本管区が司牧を担当している教会（小教区）は、全部で11か所。そのうち7か所が東京都と神奈川県に集中しています。東京都荒川区にある三河島教会は1933年に関東で一番最初に司牧を担当した教会です。

足立教会・足立サレジオ幼稚園(四谷支部)
三河島教会・ドン・ボスコ保育園(四谷支部)
都筑教会・サレジオ学院中学校・高等学校
碑文谷教会・目黒サレジオ幼稚園
DBK(ドン・ボスコ基金)
大和教会・スミレ幼稚園(四谷支部)
下井草教会・SITEC
サレジオ小学校・中学校・東京サレジオ学園(調布支部)
神学院・シニア志願院・調布教会
チマツティ資料館・ドン・ボスコ オラトリオ
碑文谷教会・日曜学校
サレジオ工業高等専門学校・町田サレジオ幼稚園(調布支部)
東京都
四谷支部
目黒支部
横浜支部
神奈川県

その他(支部に属さない活動):
DBVG(ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ)
SYM Japan(サレジオ青年運動)